

I 実践

1 研究テーマ

自他のよさを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「感謝の心を大切にし、目標に向かって自ら進んで挑戦する、たくましい久慈っ子を育成する」であり、目指す児童像は、「友だちと仲良く活動できる子」「自ら考え学び続ける子」「健康で元気いっぱいの子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「自他を大切にし、思いやりの心と助け合いの心をもって活動する子どもの育成」「自ら進んで学習し、物事についての正しい判断をし行動できる子どもの育成」「互いに認め合い、助け合って人のために尽くすことができる子どもの育成」としている。本校の児童は、明るく素直で思いやりの心をもって生活することができている。しかし、自分勝手な行動や相手を思いやることのできない言動から友だちを傷つけてしまう児童もいる。そこで、様々な人との関わりや体験活動を通して、一人一人のよさに気づき、自他のよさを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 教育活動全体を通じた人権教育の推進
- イ 様々な交流を通じた体験学習の充実

2 実践内容

(1) 教育活動全体を通じた人権教育の推進

ア 中学校・高校やPTAと連携したあいさつ運動

本校では、毎朝けやき委員会の児童と教職員が昇降口、正門等に立ち、あいさつ運動をしている。また、毎学期マナーアップ週間を取り入れ、各学年の児童が順番にあいさつ運動に参加している。あいさつ運動は、あいさつの大切さを知り、心のこもった気持ちのよいあいさつができるようにするとともに、心を通わせ好ましい人間関係を育むことをねらいとして行っている。さらに、近隣の中学校・高校の生徒やPTAの方々と連携を取りながらあいさつ運動を展開しているため、たくさんの人々とかわり合って生活し、互いに支え合っていることに気づくとともに、あいさつすることの良さや大切さを実感していると考えている。

イ 校内人権学習週間の実施

学期ごとに校内人権学習週間を設け、思いやりと感謝の心を基礎とした人権教育の精神の涵養を図った。また、学習したことを全校児童で共通理解を図れるように、あったかハートコーナを設置した（写真2，3）。1階に設置することで、児童間だけでなく、来校した保護者や地域の方にも発信できるように環境の整備を行った。1学期は、視聴覚教材を使った人権学習を実施した。各ブロックごとの人権教育目標に合わせて教材を選び、視聴前と視聴後に話し合いの時間を設け、ワークシートによる振り返りを行った。2学期は、人権メッセージや標語、ポスター、習字などの人権作品への応募を積極的に呼びかけた。特に、人権メッセージは全校児童で取組み、夏休みに家庭に持ち帰って家族と一緒に考えることで、保護者への啓発も図った。また、校内放送で代表作品を読み上げたり、各クラスの廊下到人権メッセージを掲示したりすることで、友だちの考えや思いを共有し、人権問題に対する考えを深めることができるようにした。3学期は、けやき委員会を中心に、ナイスハート週間を実施し、学校生活を改めて振り返り、自分の心を磨くとともに、久慈小がよりよくなるためにみんなで育てたい心について考える機会を設けた。

エ 道徳教育の充実

各学年とも目指す児童像に向けて、道徳の時間と他教科・領域との関連を図って授業実践を行ってきた。本年度も「こころのけやき」を各学級に掲示し、学習した教材名と価値、児童の振り返りカードを蓄積した。また、低・中学年では「ふわふわ言葉やちくちく言葉」、「なかよしポスト」の実施、高学年ではソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、友達への言葉かけや接し方などのロールプレイを実施した。さらに、道徳教育の題材を通して、人権に関する様々な課題について学習し、人権教育への理解を推進した。

(2) 様々な交流を通じた体験学習の充実

ア 異学年の交流

毎週木曜日に「ゆうゆうタイム」として学級遊びの時間を設定している。月一回程度なかよし学級で遊んだり活動したりする日を設け、外遊びや読み聞かせ、縄跳びの練習、清掃活動などを行っている。積極的に異学年の交流を設けることで、互いを思いやることができるとともに、頼りにされたり必要とされたりすることで自己有用感を感じることができた。

イ 地域の方との交流

1・3年生を中心として、地域の高齢者の方々と触れ合う機会を設定している。昔の生活の様子や昔の遊びを教えてもらった。給食と一緒に食べて交流を深め、感謝の気持ちと思いやりの気持ちをもつことができ有意義な時間となった。

ウ 命の学習

低学年は一人一鉢栽培、各学級で金魚やメダカなども飼育している。植物の栽培や生き物の飼育を通して、命を大切にすると同時に、他者への感謝の心を育てることもつながっている。また、外部講師を活用して、4年生で生命誕生についての親子学習会を開催したり、1年生の道德の授業では、保護者に手紙を書いてもらい、生まれたときの様子や成長の喜びを知ったりすることで、自分の命や友だちの命について考えを深めることができた。

エ 居住地校交流

居住地校交流は、地域の仲間として共に助け合い、支え合って生きていくことの大切を学び、障害や個性に対する理解を深め、人間関係を広げることがねらいとして実施している。今年度は、7月と2月に授業や給食、休み時間を共に過ごして交流を深めることができた。交流3年目になるため、お互いに慣れ楽しく活動する場面が見られた。休み時間や給食の時間も話しかけたり、見守ったりできるようになったことは大きな成長である。次の交流を楽しみに待っている姿も見られた。

3 成果

様々な活動を通して、児童はお互いを認めたり、助けたり、支え合ったりすることの大切さに気づき、それを実践することの意義を感じることができた。また、様々な人との関わりの中で、人と触れ合う楽しさや難しさに気付くとともに、自己肯定感や自己有用感を味わうことができた。

II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものであるが、学習したことを日常生活や家庭・地域でも実践できるようにしていくことが大切である。一度だけの活動で終わることなく、繰り返し継続して取り組むことで、互いの信頼関係を深めることになり、思いやりの心や感謝の心が育っていくと考える。学校での活動を、家庭や地域に発信し、連携していくことで人権教育を充実させていきたい。

III あったかハートコーナー・活動の様子



<小・中・地域・連携あいさつ運動>



<人権コーナー>

ありがとうの花

人権コーナー

人権メッセージ